

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

末 吉 利 啓

○千葉県佐倉市

「民間プールを活用した水泳授業の民間委託」について

【所 見】

今回の民間委託のきっかけは全国の自治体で問題になっている公共施設（今回は学校プール）の①老朽化・耐震問題と、②震災による節電対策であった。

①老朽化・耐震問題

対象となった佐倉小学校のプールは市内でもかなり古い。市内全 34 校のプールを同規模で維持するためのコストと、民間委託のコストを試算したところ、全ての小中学校で実施すれば 30 年でライフサイクルコスト 13 億 6,000 万円のコストダウンができることが判明した。

②節電対策

学校プールの消費電力量が多い事実が判明したことも大きかったようだ。原因はプールの循環ろ過ポンプを 24 時間連続運転していたためで、このデータの“発見”がプールの議論を本格的にすすめるきっかけになった。（ファシリティマネジメントの見える化）

また、質疑の中で我々が心配するような住民の反対、クレームなどの課題は、現在のところはないとのことだった。ただ、歴史のあるまちは住民の理解を得るための時間が比較的必要な傾向があるようだ。

民間施設の受け入れ限度や、地理的な問題から全校実施による 13 億 5,000 万円のコストダウンは簡単ではないようだ。専門的な指導が受けられる、泳力による指導ができる、天候に左右されない、教員の負担軽減になる、維持修繕費の削減になるなど多くのメリットが示すように、本市でも検討の余地はあると感じた。

私としてはこの事業により公共施設マネジメントを、子育て世代や学校を抱える地域全体で考える重要なきっかけになると感じた。「これだけの施設を維持するにはこれくらいの費用が掛かる」、「こういったやり方ならこんなメリットがあつて費用を削れる」といった具合に自分たちの生活に密接なところから、行政、議会と一緒に考える市民が増えるのではないかと期待するところである。

○千葉県我孫子市

「新規就農支援事業」について

【所見】

我孫子市は本市の3分の1程度の面積に13万人の人口を抱えている。手賀沼の北に位置し東西に長い市域には多くの農地を抱えていた。東京から30kmに位置することから、昭和40年代に急速なベッドタウン化が進み、農地は激減した。昭和50年農家数1,168名が平成27年には417名に、経営耕地面積も1,255ヘクタールから773ヘクタールと、共に約半減している。これに伴い耕作放棄地も大きな問題となっている。

そこで我孫子市では新規就農者を増やし農地を蘇らせるため、他市に類を見ない多くの支援事業を行っている。新規就農者にとって大きな壁となる農地の取得には随時あっせんを行い、農地の賃借料補助を行っている。農業を学ぶための研修費補助や研修受入農家の斡旋を行い、農地を見つけ自立するまでの実践農場も提供している。また、平成27年からは「我孫子市新規就農者連絡協議会」を設立し、農業という新しい世界で奮闘している仲間同士が、助け合える環境づくりも行っている。国の新規就農総合支援事業と組み合わせ次第で、大変心強い支援を受けられる印象であった。

農業という世界に新たに参入された就農者をフォローするため、農政課の方々は既存農家と新規就農者の仲介、斡旋、ヒアリングなど実にきめの細かい作業をされているようだ。その結果、平成21年から始まった本事業において途中で離農された方は1人も出ていないそうだ。（平成27年現在で合計19経営体24名が従事）

課題としては、これらの支援が期限（5年）を迎える今後、経済的な支援なしでしっかりと自立できるかがあげられた。他の分野の支援事業にも言えることだが、期限が切れるまでにどこまで、経営者としての力を付けられるかが大変重要だ。

本市にも国の制度を年齢的な部分で補完する「新規就農塾」や、先進事例を現場で学べる「農業大学講座」があるが、我孫子市の様にもう一歩進んだ就農支援も検討の余地があると感じた。